

**2022年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）**

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [西野 亮祐]

学年・組・番号 [1年 I組 9番]

研究課題： 日本のボランティア意識の低さについて—歴史の観点から—

(英文) A study of the low consciousness of volunteer in Japan from the perspective of history

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

本研究の目的は、ノブレス・オブリージュと欧州のボランティア意識の関係性についてその成立の過程から明らかにし、また学院生の意識調査を通して日本のボランティア意識向上について考察することである。もともとボランティアについて興味があり、日本のボランティア意識が欧米諸国と比べて低いことを知った。そこで、現在の欧米で基本的な道德観とされているノブレス・オブリージュは、もとは貴族の考え方であったことを踏まえると、それが民衆に広まっていることを疑問に思った。そこで、文献調査を行い、課題解決を試みる。また、日本のボランティアの課題についても考察する。具体的に、貴族の成立の歴史からノブレス・オブリージュの成立についての歴史を調査し、そののちは、現代まで貴族制度が残るイギリス貴族からノブレス・オブリージュの実態について調査する。そして、日本のボランティアの課題を考察するため、学院生へ意識調査を実施する。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

貴族が階級として意識されるようになったことで生まれたのが、ノブレス・オブリージュの精神である。その精神に基づいて、貴族たちは慈善活動を積極的に行った。しかし、ノブレス・オブリージュが現代の民衆に根付いたことでボランティア活動が盛んになったわけではなく、近代以前に貴族が担っていた慈善活動を、近代以降、国家や民衆が行うようになっていったことが、現在のボランティア活動に繋がっていることが分かった。また、学院生の調査を通して、ノブレス・オブリージュに近い精神を持っている人の割合は多いに関わらず、ボランティア活動に対しては消極的であり、現在の日本のボランティア活動に対して不信感を持つ人が多くいることが分かった。ボランティア活動は多種多様なものが存在するが、ノブレス・オブリージュの精神に乗っ取ったボランティアを広めていくことが、日本のボランティア意識の向上につながるのではないかと。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 西野亮祐

研究分担者

担当教諭 柿沼亮介

(受給額： 20000 円)

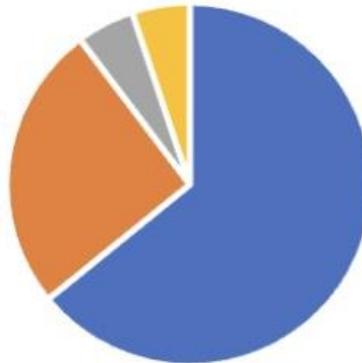
※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

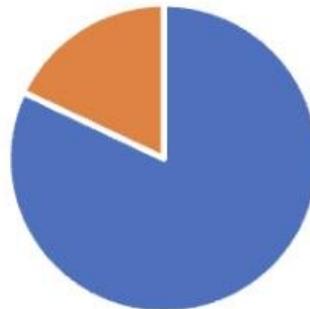
質問2：自分は恵まれていると思いますか

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない



質問5：あなたは、恵まれない人に対して何かしてあげたいと思ったことはありますか。

- はい
- いいえ



質問8：あなたはボランティアをしたいと思いますか。

- 進んでしたいと思う
- 機会があればしたいと思う
- どちらかといえばしたくない
- したいと思わない

